

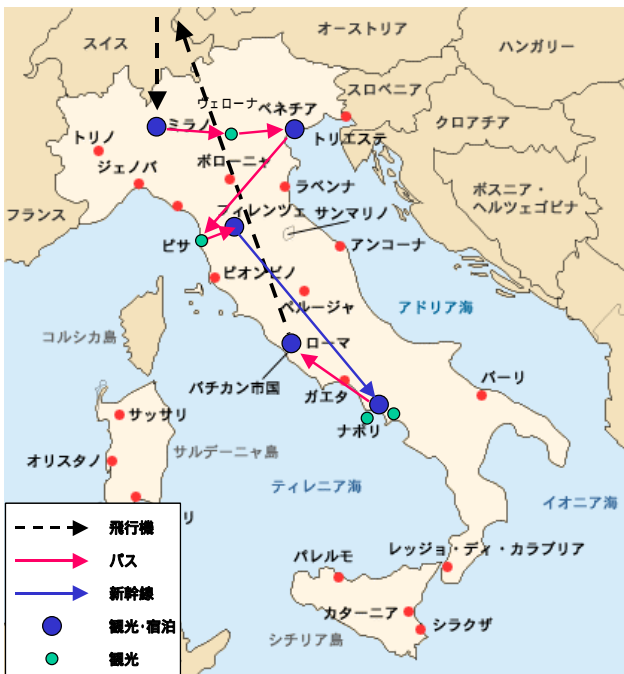
イタリア家族旅行

右城 猛

まえがき

2003年9月7日、(株)日本旅行が主催する「感動がいっぱい!! イタリア魅力のすべて9日」という7泊9日のツアーに家族で参加した。イタリアは丁度10年前の1993年10月に旅行しており、私は2度目の経験。家族での海外旅行は2002年8月のバリ島に続いて2度目。

観光地は、ミラノ、ヴェローナ、ヴェネチア、ピサ、フィレンツェ、ナポリ、カプリ島、ポンペイ、ローマである。



関西空港からミラノへ(9月7日)



関西空港 10時30分発のオランダ航空 KL868便に搭乗。12時10分、機内食が出てくる。



離陸して、7時間45分が経過。少し疲労気味。



12時間後にアムステルダム・スキポール国際空港に到着。現地時間は15時15分。



スキポール国際空港で約3時間の待ち時間があったので、免税店を見て回る。

18時10分発のKL1631便に乗り継いで19時55分にミラノ空港に到着する。バスで宿泊先であるミラノ郊外の「リパモンティ・デュ・ホテル&レジデンス」に行く。

ミラノ観光(9月8日)

午前中はツアーと一緒にミラノ市内観光。午後
は自由行動。



ミラノ郊外にあるリパモンティ・デュ・ホテル&
レジデンス。ここで2泊する。



最初の観光地は 15~16 世紀に栄えたスフォル
ツァ城。生憎の雨となった。



ルネサンス時代に造られたスフォルツァ城



ゴシック建築の最高傑作と言われるミラノのド
ウオーモ。



レオナルド・ダ・ヴィンチ像が建つスカラ座広場。
背後の建物がオペラで有名なスカラ座



ショッピング・アーケードの元祖であるビットリオ・エマヌエル二世アーケード



和恵がバックを買ったプラダ本店



ミラノの路面電車



像かと思ったら街頭芸人



バッグのブランド店巡り



ショッピングで疲れて一休み

ヴェローナ(9月9日)

ヴェローナはミラノとヴェネツィアの真ん中に位置する中世の古都。シェイクスピアの「ロメオとジュリエット」の舞台となった街としても有名。



ヌオヴァ門(新しい門)とポルタ・ヌオヴァ通り。ヴェローナはかつて城壁で囲まれていていくつかの門があったが、現在は城壁はあまり残っていない。



ブラ広場。カフェが並ぶ市民憩いの場。



ブラ広場の東側にある市庁舎。



アリーナ(円形闘技場)。ヴェローナのアリーナの大きさはローマのコロッセオの3分の2であるが、座席のほとんどが残っている。イタリアで最も保存状態が良い古代ローマの円形闘技場。夏には野外オペラの会場になっている。



ヴェローナの街並

ヴェネチア(9月9日)

ヴェネチアはイタリア語。英語ではベニス。アドリア海の洲の上に作られた 118 の小さな島と 150 の運河、400 以上の橋からなる小さな街。

ローマ広場でバスから降りて、水上バスで島に渡る。



サン・マルコ広場



昼食は本場のイカスミパスタ



ヴェネチア名物のゴンドラに乗って運河を散策。
船頭がカンツォーネを聞かせてくれる。



サン・マルコ広場



海上に浮かぶサン・ジョルジョ・マッジョーレ教会。「水の都」を実感させられる光景



サン・マルコ広場近くの土産物屋



牢獄に入るための「ため息の橋」



自由時間は運河でゴンドラに乗ることにする。



運河には無数の橋が架かっている。時間の都合上、
リアルト橋までいけないのが残念。



サン・マルコ大寺院



AUTOGRILL(オートグリル)は, Auto Strada(アウトストラダ)という高速道路のサービスエリアにあるレストラン。ここでトイレ休憩をとる。



ピサ大聖堂とピサの斜塔



宿泊したのは、ヴェネチアから約 50km 北にあるトレビソという町の「ボローニャヴィラパーチェ」というホテル。中国人の団体客も泊まっていた。

ピサ(9月10日)

トレビソのホテルからバスでピサへ。この間は結構距離があり 移動時間に約 4 時間を費やした。



傾斜したピサの斜塔を手で支えて写真をとるのが観光客の定番。



ピサ大聖堂



ピサ大聖堂の中庭



ピサ大聖堂の内部



ピサ大聖堂の中部



ピサの斜塔に来る観光客を見込んだ土産物屋

フィレンツェ(9月10日)



街の中を観光用に馬車が走っている



ヴェッキオ宮殿の前のシニョーリア広場にあるネプチューンの噴水。



イタリアの警官はおしゃれ



右側の建物はサン・ジョヴァンニの洗礼堂。プロンズの扉はジベルティ作の「天国の門」



ドゥオーモとジョットの鐘塔



ウフィツィ美術館のレストランのベランダ。背後にドゥオーモが見える。



ミケランジェロ作のダビデ像のレプリカ

ユーロスターでナポリへ(9月11日)
フィレンツェからナポリまではユーロスターで移動。スーツケースはバスが運んでくれる。ユーロスター・イタリアとは、フィレンツェ駅とナポリ駅を結ぶ高速列車。日本の新幹線より車両の幅が狭く、座席シートは4列。



ウフィツィ美術館から眺めたアルノ川に架かっているヴェッキオ橋



フィレンツェ駅の構内



ユーロスター

「ナポリを見て死ぬ」と言われるナポリ駅に到着



旅の疲れで二人ともグッスリ。



ユーロスターの中のカフェ



アンジュー家の城塞



サンタ・ツチア港に突き出たカステル・デローヴォ(卵城)



サンタ・ルチア港の海浜地区



海浜地区(ボルコ・マリナーロ)にあるインマコラテッラの噴水



サンタ・ルチア港



サンタ・ルチア港の海浜地区



サンタ・ルチア港の街灯



市内を走るバス。ナポリは街が荒れているような雰囲気があった。イタリアはミラノなどがある北の方ほど裕福で、ナポリのある南は貧しいという感じがする。街の清掃も十分でない。



宿泊したナポリ駅の近くのホテル「カブール」。これまでのホテルに比べて街の中心部にあったが、古くてドアの鍵がかからない。



ホテルの近くの公衆電話

カプリ島(9月12日)

ナポリの南約 30km に位置する。カプリ島は風光明媚でイタリアを代表するリゾートアイランド。レモンが特産物で、別名「レモン島」とも言われる。

サンタ・ルチア港から水中翼船に乗って・カプリ島へ行く。所要時間は約 50 分。



ファラリョーニと呼ばれる海岸の離れ岩





コーヒーを飲んで休憩



カプリ島の観光の目玉は、「青の洞窟」であったが、波が高くて船が洞窟内に入れないとのこと。港は風もなく穏やかであるが、それでもダメとのこと。添乗員の藤森由起子さん(独身、徳島県山川町出身、大阪在住)の話では、青の洞窟に入れるのは1年に何回もなく、何度も来ている藤森さんも経験がないとのこと。

青の洞窟に行けなかったので、集合時間まで時間の余裕がありすぎ、ポケットしながら港を眺めているところ。



島を散策しながらレストランへ



昼食のパスタ



カプリ島の港の様子

ポンペイ遺跡(9月12日)

ポンペイは1世紀までナポリ近郊にあった都市国家。ヴェスヴィオ火山の大噴火により79年に壊滅した。18世紀に発掘が開始され、現在は主要な部分が有料で一般公開されている。その遺跡は世界遺産になっている。

逃げ遅れた人々は火山灰の中に埋もれて死んだ。後に発掘されたとき、遺体部分だけが腐ってなくなり火山灰の中に空洞ができていた。考古学者たちはここに石膏を流し込み、死んだときの形を再現している。



石膏で復元された遺体



79年に噴火したヴェスヴィオ山



ポンペイの遺跡



ポンペイの遺跡



アッポンダンツァ通り



石膏で復元された遺体



パン屋



居酒屋



ホテル・ピサナ・パレス



娼婦の館の壁面には、男女の交わりを描いた壁画が残されている。



ホテル・ピサナ・パレスの前の道路



娼婦の館のベッド



ヴァチカン市国入り口

ローマ(9月13日)

ポンペイ遺跡を見学した後、バスでローマに移動。所要時間は約 2.5 時間。レストランで夕食を済ませて、「ホテル・ピサナ・パレス」へ。

場所がローマ郊外にあるので、市内へ遊びに出ることもできない。



ヴァチカン市国入り口の警備兵



ヴァチカン市国の建物の中



ヴァチカン市国のサン・ピエトロ広場



ヴァチカン市国の建物の中



ローマでの昼食



コロッセオ。80年に建設された娯楽のための演技場。剣士の試合や猛獣との闘いなど残酷な格闘が毎日繰り返されていた。



トレビの泉



右手にコインを握り左肩越しにコインを泉の中に投げると、最初のコインは「ローマに再び訪れることができる」、2つ目は「素敵な恋人に巡り会えることができる」、3つ目のコインは「嫌な人と別れることができる」という伝説がある。



スペイン広場



カフェ・グレコ



「アンチコ・カフェ・グレコ」という名前の喫茶店。1760年にスペイン広場近くに創業。国の重要文化財に指定されている。アンデルセン、メンデルスゾーン、ベンジャミン・フランクリン、ゲーテなど著名人が訪れたと云われている。



像に化けた大道芸人

帰国(9月14日)



9月14日の9時10分、ローマ・レオナルド・ダ・ピンチ国際空港よりアリタリア航空 AZ108便でアムステルダム・スキポール国際空港に向けて出発。飛行機は雪に覆われたアルプス山脈の上空を通過。とても綺麗。

スキポール国際空港着は11時35分。約3時間後の14時25分、オランダ航空 KL867便で関西国際空港へ。機中泊して9月15日の8時35分に到着する。

あとがき

10年前の感動を家族に味わってもらいたいと思い、旅行先をイタリアに決めた。旅行の楽しみにはいろいろあるが、ホテルのサービス、食事、ショッピングは大事な要素である。その点、イタリアは、料理は美味しいし、ショッピングを楽しむこともできるので申し分ないと思っていた。

ところが、今回の旅行は少し期待はずれであっ

た。宿泊したホテルはすべて郊外にあった。夜、外に出てショッピングを楽しむことができなかった。ヴェネチアでは、土産店のショーウィンドーを見ながら家族揃って迷路のようになった路地を散策するのを楽しみにしていたが、宿泊したのはヴェネチアから50kmも北のトレvisoという町であった。フィレンツェやローマにしても、夜の街が楽しいのである。それらを家族に体験させてあげられなかったのがとても残念であった。

ホテルでの食事は質素なものであった。トレvisoのホテルのときであったが、朝食はパンとコーヒーとリンゴだけであった。添乗員の藤森由起子さんは、これが一般的なイタリア人の朝食と説明していたが、日本でも家庭での日常の朝食は似たようなものであろう。しかし、ホテルで食べる朝食としては寂しすぎると思った。

前回のイタリア旅行は、日本興業(株)の招待であり、飛行機のシートはビジネスクラス、ホテルは五つ星ホテルばかりであったので、それと比較すること自体に無理がある。旅行代金が安ければそれなりになることを痛感させられた。

10年前に比べてイタリアの街が随分と清潔になっていると感じた。特に公衆トイレは整備され綺麗になっていた。

10年前の通貨はリラであった。物価がとても安くて円が強いという印象であったが、今回は通貨がユーロに変わり、物価がとても高いと感じた。

ローマでガイドをしてくれたイタリア在住の日本人の方は、物価が上がり以前よりも生活は苦しくなったと話しておられた。

いろいろと不満は残ったが、家族にとって楽しい生涯の思い出に残る旅になったことと思う。

6年前の記憶をたどりながら、旅行記を執筆する。

(2009年5月9日記)